

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援ホーリン			
○保護者評価実施期間	2026年1月15日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、多様なプログラムを提供し、こどもの特性に応じた専門性のある支援を行っている。	・個別支援計画に基づき、スモールステップを大切にしながら、目的や意図を明確にし、職員間で内容を検討・共有した上で、おさま一人ひとりの段階に応じた支援を心掛けております。また、おさまのその日の状態にも配慮しながら、支援を行うことを大切にしております。	引き続き、事業所内で研修を行い、支援や知識の幅を広げていくとともに、おさま一人ひとりの興味や課題に合わせた、療育グッズやプログラムの充実を図ってまいります。
2	こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画書を作成している。	保護者さまとの事業所内相談にて日頃の生活の様子やニーズをお聞きするだけでなく、こども園とも連携しながら園生活での様子なども共有した上で、一人ひとりのおさまに応じた具体的な個別支援計画の作成を行っています。また、個別支援会議等でスタッフ間で意見交換や共有を図っております。	引き続き、必要な支援及び適切な支援ができるように、保護者の方やおさまのニーズや思いに寄り添い、また、職員間での意見交換や共有や関係機関との連携も大切にしながら、個別支援計画の立案に努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用いただく上で受け入れ可能な地域が限られてしまい、要望に沿えないことがある。	事業所の所在地が、地域に西端に位置しており、ニーズに応じた送迎時間への対応が難しい。	送迎については対応範囲が限定されてしまうので、他の送迎サービスとの併用なども踏まえ、保護者と相談の上で、検討が必要であると考えております。
2	他の事業所との交流や情報交換の機会が少ない。	地域に児童発達支援事業所が1つしかないため、同じ職種での交流や情報交換の機会を持つことが難しい。	協働化により、他の事業所との意見交換や研修を通じた学びの機会を持ち、職員の資質向上を図り、よりよい支援につながるよう努めてまいります。